

令和6年度 学校関係者評価報告書

大阪市立東粉浜小学校協議会

1 総括についての評価

「安全・安心な教育の推進」では、常に危機感をもちながら見守り続け、児童に寄り添い、継続的、組織的に取り組み続けてきた。一人で抱え込まず複数の教職員で情報共有をし、組織的に SC や SSW など関係諸機関とも連携しながら継続的に進めてきた。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」では、学力経年調査の標準化得点で、概ねどの学年もほぼ 100 を超えることができ、一定の学力の定着を図ることができた。一人一台学習者用端末を「令和の文房具」として日常的に授業で活用し、持ち帰り、家庭でも活用できた。体力面では、全国体力・運動能力、運動習慣等調査で一定の成果をあげてはいるが、まだコロナ禍で低下した体力においてはまだまだ課題が残る。しかし、体育の授業以外の時間でも体を動かそうとする意識が向上しており、体を動かす習慣が定着しつつある。

「学びを支える教育環境の充実」では、一人一台学習者用端末を活用した新しい授業スタイルが定着するとともに、ペーパーレスや業務軽減などの働き方改革の推進に向けた成果が出ている。保護者・地域や関係諸団体と連携しながら、地域に古くから伝わる伝統文化等をはじめとする様々な教育的資源を学習過程に取り入れ、教科横断的な学習として活用することにより、郷土愛を育み続けたり、プロの音楽家や漫才師による直接指導など、専門家による「本物」を体験できる特別授業で子どもたちの心を揺さぶることができたりしている。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

最重要目標1 安全・安心な教育の推進

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。(R5年度 76.3%)
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87%以上にする。(R5年度 84.6%)
- 小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87%以上にする。(R5年度 84.6%)
- 生活振り返りカード（東粉浜マイスターカード）の各項目について毎月保護者と児童が話し合い、学校や家庭生活を振り返り、自己の課題を明確にして改善に取り組む。
- 常に危機感をもち、アンケートに対しても丁寧に聞き取りをし、注意深く経過観察をしているのがいい。見守り隊や地域、SC や SSW との連携をはじめ、スクリーニング会議や「いじめ虐待防止委員会」を有効活用し子どもを守ってほしい。
- 子どもが相談しやすい信頼関係を築き、心に寄り添った指導を徹底してほしい。
- 各学年の実態に応じた防災週間や「道徳の日」の取り組みはとても良いことである。さらに地域の訓練にも保護者と子どもたちが参加できるとなお良い。
- 「本物」にふれる体験や探求・読解として取り組んでいるキャリア教育の実践は、子どもが夢やあこがれをもつ、いいきっかけとなっており継続すると良い。
- 年間を通して行うたてわり班活動やできる限りほめて伸ばすという指導を心がけて自尊感情の育成に努めているのはよい。同時に指導すべきことはきちんと指導を徹底し続けていってほしい。

最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 45%以上にする。(R5 年度 43.6%)
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 73%以上にする。(R5 年度 71%)
- 令和 6 年度末の校内調査において、「早寝・早起きができている。」に対して肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にし、「毎日朝食を食べている」に対して肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上で維持する。
(R5 年度 早寝早起き 75.9%、朝食 96.1%)

- 学校見学を通じて落ち着いて学びに取り組んでいるのがよくわかった。
- 学力面では大阪市平均と比較する中でよい結果を残せているが、二極化が広がっているならば、さらに誰一人取り残さない学力の向上に向けて引き続き取り組んでほしい。
- 一人一台学習者用端末の活用率が高いことや様々な使い方で協働的な学びに取り組んでいることは、子どもたちが大人になるころには必須なので良い。
- 英語ではネイティブの音声をたくさん聞くことが効果的である。
- 体力向上に関して、地域も協力したいが広々と運動できる公園がない。学校で体を動かすことの意識改革や習慣化に努めているのはありがたい。
- 朝食喫食率が高いのはいい。睡眠にかかわる生活のリズムに関しては、今後も健全な心身の発達のためには必要であることを引き続き啓発していく必要がある。

最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕
- 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 93%以上にする。(R5 年度 92.6%)
- 生活振り返りカードにおいて「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上を維持する。(R5 年度 84.2%)
- ICT 機器を使った学習が充実している。同時に、問題を未然に回避するよう情報モラルの育成にも学年の実態に応じて取り組み続けてほしい。
- 長時間勤務が改善されている。健康にご留意いただきながら真に子どもたちのためになる改革を引き続きお願いしたい。
- 読書が好きであるという割合が高水準であるのが素晴らしい。すべての学びのもととなる力なので、いつまでもこれを維持してほしい。

3 今後の学校園の運営についての意見

時代を見据えて、引き続き一人一台学習者用端末をさらに有効活用し、スクールライフノートの「心の天気」「相談機能」「いいところみつけ」も日々チェックし活用をしていく。今後、学力面ではさらに読解力を伸ばし、自分の思いを周りの人の思いとともに練り上げ深めあえるように育んでいく。体力面では、系統立てた専科指導による計画的な体育学習を進めたり、意欲的に取り組むことができる体育行事やそれに関連する頑張りカード、表彰などを工夫したりすることで、引き続きより意欲的にすすんで体力向上に努めていくように働きかけていく。体育館にエアコンをつけるなど環境面の充実を切望する。働き方改革においては、真に「子どものためになる」学習・行事・業務の精選（例えば紙のアンケート廃止、生成 AI の効果的な活用など）を考えていく。